

町田市幼保小連携推進事業

～なかよく！いきいき！わくわく！～

町田っ子だより 第2号



町田市幼保小連携推進講演会

2020年1月10日(金)

講師：白梅学院大学大学院教授 無藤 隆 先生

町田市民フォーラム

町田市で進めている「町田市幼保小連携推進事業」として、2020年1月10日(金)に、「町田市幼保小連携推進講演会」を開催しました。講演会では、白梅学園大学大学院教授の無藤隆先生にご登壇いただき、幼児教育の重要性、幼児期と小学校における教育の違い、小学校教育への接続事例等について貴重なご講演をいただくことができました。



講師プロフィール

お茶の水女子大学生生活科学部教授などを経て、2004年、白梅学園短期大学学長、翌年より2007年まで同大学学長、2017年より現在、白梅学園大学 大学院特任教授、白梅学園大学名誉教授。

また、文部科学省中央教育審議会委員、内閣府子ども・子育て会議会長をはじめ、保育・幼児教育に関する政府審議会・調査研究会などの座長等の公的活動にも尽力されております。

小学校から42名、保育園・幼稚園・認定こども園から97名の参加がありました。たくさんの方々にご参加いただき、ありがとうございます。

<当日の様様>



講演メモ（一部）

● 幼児教育の重要性

- ・ 人格形成の基礎は幼児期に育まれるものであり、保育者はその時期の子どもとの関わりをもつ者として重要な役割を担う。
- ・ 認知能力及び非認知能力は、幼児期（特に満年齢4～5歳児）の間に育まれる。

● 幼児期と小学校における教育の違い

- ・ 幼児期と小学校における教育の違いは、幼児期は遊びを通じた学び、小学校期は教科的な学びであると整理できる。（ネットワーク（網の目）的／リニア（直線）的）

● 幼児期の10の姿、小学校の接続へ

- ・ 規範意識とは、端的に言えばルールのこと。規範意識の醸成過程において、ルールがあるから面白いという学びを、遊びを通して経験することで、子どもの規範意識（社会性）が形成される。
- ・ 小学校入学期（4月～5月連休明けくらいまで）は、学校環境になれること（適応指導）を主眼とした指導計画が求められている。

● 「幼児教育から小学校教育へ」スタートカリキュラムの事例等

- ・ イスではなく、床に絨毯を敷き、子どもたちで輪になって自己紹介をする小学校の取組み紹介。より子ども同士の距離が近く、安心感一体感が生まれやすいとのことだった。



参加者の声

「講演を受けて、参考になったことは何ですか？」（アンケートより抜粋）

- ・ 幼保と小の学びの違いを改めて知れたこと。また、資質・能力の部分も参考になった。スタートカリキュラムの実践の様子を見ることができ、よかった。
- ・ スタートカリキュラムの実践例が聞けたこと。繋がるという所をしっかりと自分自身の中で理解をし、結び付けることが出来ました。
- ・ 授業に集中できない子がいけないのではなく、どの子も興味を持てる工夫が必要。
- ・ 小学校のスタートカリキュラムについて知れたこと。非認知能力の大切さに改めて気づき、日頃の保育を見直していきたいと思った。
- ・ 幼児期は様々な環境との出会いの中で学びがあり、それが小学校での学びのベースになるということ。
- ・ 園によるアプローチの違いを大切にしていくこと。様々な園から小学校へ入学することは当たり前、自信を持って小学校へ入学できる気持ちを育てることが大切。

皆様の幼保小連携の取り組みがあれば、
ぜひ取材させていただきます！

町田市幼保小連携推進事務局 田中・荻杉・吉川・小俣

042-724-2138 まで！

